

足利工業大学 看護学部 学生生活実態調査報告書

看護学部 学生指導委員会 学生支援課

はじめに

足利工業大学看護学部は、調和の精神と看護専門職としての倫理観を持ち、社会に貢献できる人材を養成することを目的に2014年に開設され、3年目を迎えました。このたび、学生の学習環境や、生活環境を把握し、今後の学生支援のあり方を具体的に検討するために、看護学部在籍する全学生を対象に、第1回学生生活実態調査を実施いたしました。

実施にあたり、学生指導委員会にてアンケート内容を審議し、実施方法・集計方法などについて検討を行い、その後、教授会にて審議されて本アンケートを実施いたしました。アンケートの質問項目は、全49項目からなり、内容は「入学・学業について」「学内施設の利用について」「情報関連機器について」「健康面・悩みについて」「課外活動について」「アルバイトについて」「住居・通学時間について」「他の生活関連について」「卒業後の進路について」「大学生活全般についての要望、意見、感想」の構成です。各項目には、回答者の具体的な意見などを受けるために自由記入欄を設けました。

調査は、できるだけ多くの学生が参加できるように、後期ガイダンス時に実施した結果、95.6%の高い回収率を得ることができました。本調査の結果は、学生の状況を概ね反映されていると思われます。貴重なお時間を頂き、調査にご協力頂いた学生の皆様、及び教職員の方々に改めて感謝申し上げます。本調査の結果を真摯に受け止め、今後の学生支援のあり方を検討していきたいと考えております。

看護学部 学生指導委員長
佐藤 正子

I 調査の概要

1 調査目的

看護学部学生の学業生活の実態や、生活環境の現状を把握し、より充実した学生生活を送るために、どのような支援が必要かを具体的に検討する際の資料を得ることを目的とする。

2 調査対象と調査期間

2016年9月1日現在、足利工業大学看護学部在籍する全学生を対象とし、9月21日、後期ガイダンス終了後に調査票を配布し、回収した。

3 回答数

対象学生250名に対し、回答者数は239名で回収率は95.6%であった。学年別回答率を表1に示した。回答者の男女比は、女性89.5%、男性10.5%であった。

表1 アンケートの回収率

学年	在籍者数	回答者数	回収率
1年生	89名	84名	94.3%
2年生	78名	77名	98.7%
3年生	83名	78名	93.9%
合計	250名	239名	95.6%

4 質問内容

資料1 質問用紙 参照

5 分析方法など

データ分析は学生支援課の菅野久幸氏が担当し、調査票に従い質問項目毎に記述統計を示した。各質問の自由記載については内容ごとに整理し記載した。

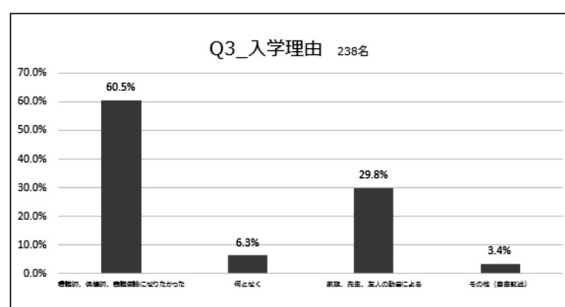


図1 入学理由について

II 調査結果

1.1 入学・学業について

看護学部への入学理由は (Q3), 「保健師・看護師・養護教諭になりたかった」60.5%で最も多く, 「家族・先生・友人の助言による」が29.8%であった (図1)。目的が明確で入学した学生が多いが, 中にはやや受身的な学生もいることがわかった。

看護学部への満足度は (Q4), 「満足している」が22.5%, 「ある程度満足している」61.4%, 全体として83.9%が満足している結果となった (図2)。学年が進むに連れて満足度がやや低下している。理由として, 専門の科目が増えることや臨地実習など, 過密なカリキュラムが影響していると考えられる。

現行の授業について (Q5), 「理解できる」9.7%, 「ある程度理解できる」が76.9%であった。また, 13.5%の学生は「理解できない」及び「あまり理解できない」と回答していた (図3)。理解できない理由は (Q6), 「自分の予習・復習などの自己学習の不足」が73.3%, 「授業に集中できない」が14.3%であった。理解困難な科目として医学系

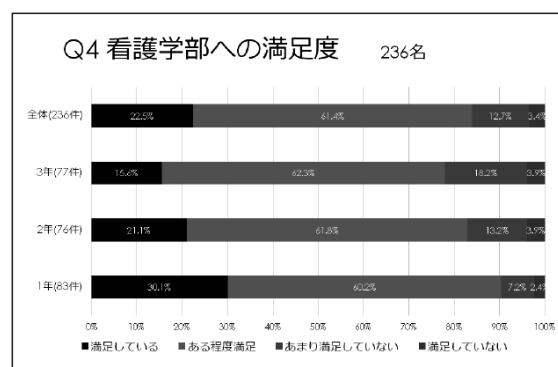


図2 看護学部への満足度

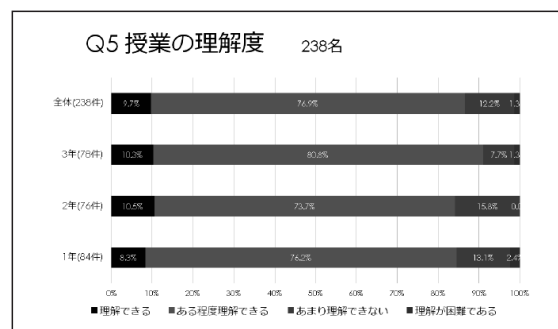


図3 授業の理解度

の科目があげられている (Q7)。学生に対し、自己学習の方法、学習時間の確保などの指導が必要であると考えられる。

1.2 学内施設利用について

学内施設利用について、図書館の利用は (Q8), 「毎日利用している」 0.8%, 「週に2～3回利用している」 13.8%, 「月に2～3回利用している」 41.4%であり、日常的に図書館を利用している学生が半数を超えていることがわかった (図4)。学習支援室を利用している学生は (Q9), 9.7%で非常に少なかった (図5)。カウンセリング室を利用したことがある学生は (Q10), 2.1%のみであり (図6), 保健室の利用については (Q11), 21.0%に留まった (図7)。

1.3 情報関連機器について

情報関連機器について、インターネットの利用方法は (Q12), 「スマートフォン」が51.7%

と最も多く, 「自宅のパソコン」が35.7%であった。また, 利用しているSNSは (Q13), 「LINE」が43.4%, 「Twitter」が37.0%であった。SNSの利用時間については (Q14), 「4時間以上」が12.6%, 「3時間以上4時間未満」が10.5%, 「2時間以上3時間未満」が18.9%であった (図8)。42.0%の学生が2時間以上利用していることがわかった。今日, SNSなどのネット依存による学習時間の低下が問題となっているが, 本学も同様の問題が懸念される。個々の学生の学習状況に応じて指導の必要があると思われる。

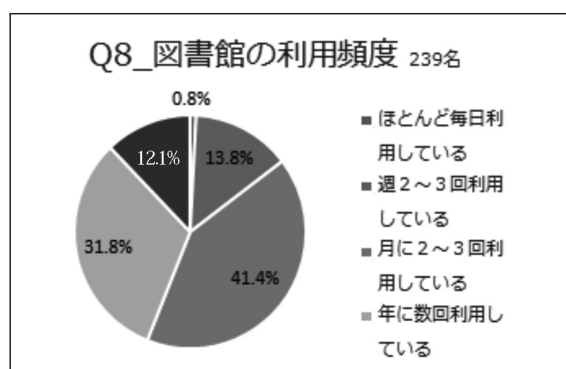


図4 図書館の利用頻度について

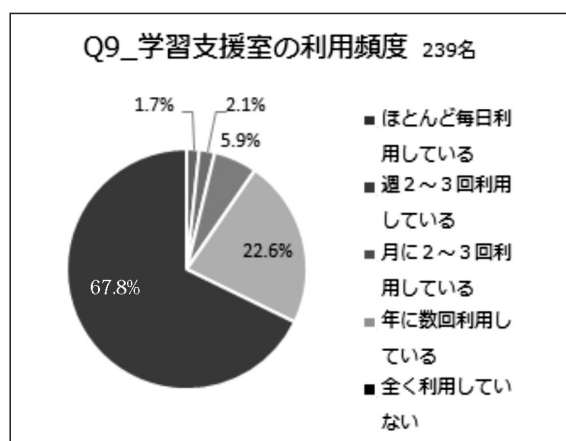


図5 学習支援室の利用について

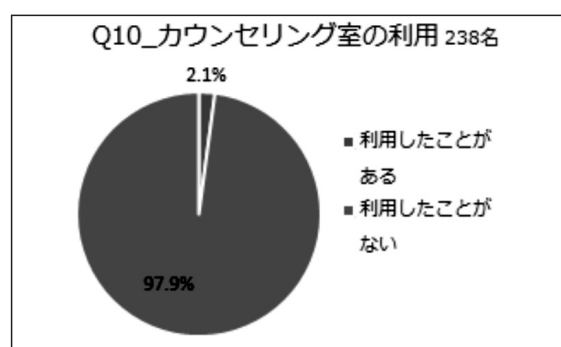


図6 カウンセリング室の利用について

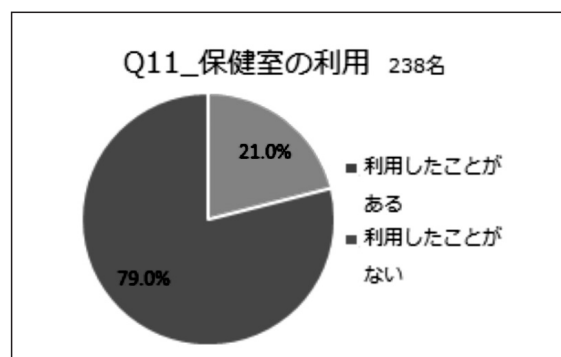


図7 保健室の利用について

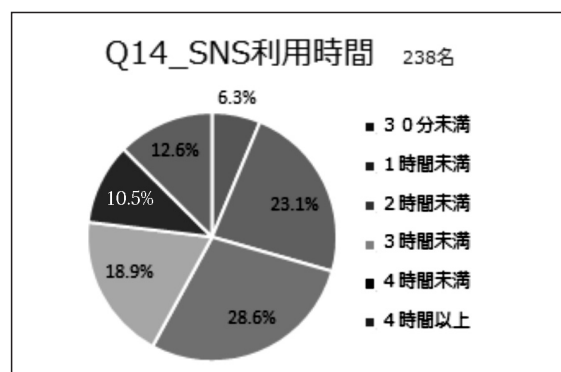


図8 SNSの利用時間について

1.4 健康面・悩みについて

健康状態については (Q15), 「良好」が42.0%, 「やや良好」が46.6%, 「あまり良好でない」が10.5%, 「全く良好でない」が0.8%であった(図9)。8割以上の学生は良好であるが, 定期的に通院している学生が (Q16), 13.4%いることがわかった。

喫煙の習慣については (Q17), 「喫煙の習慣がある」0.8%, 「ときどき喫煙する」2.9%と喫煙する学生は僅かであった(図10)。飲酒の習慣について(Q18) も同様に「週2～3回」以上飲酒する学生は3.8%で, 飲酒を習慣にする学生も僅かであった。

悩みを感じたことの有無について (Q20), 「感じたことがある」65.0%, 「感じたことがない」35.0%であった(図11)。悩みの種類については

(Q21), 「勉強意欲がわからない」20.9%, 「授業が理解できない」が14.8%で, 学習に関する悩みが全体の37.5%であることが分かった。また, 「交友関係」が16.8%, 「アルバイトと学業の両立」が12.8%であった。「経済的な不安」については12.8%の学生が悩みを感じていた(図12)。

悩みの相談相手については (Q22), 「友人」が最も多く50.2%, 次に「家族」が36.4%であった。「大学の教員」や「学生相談室のカウンセラー」の利用は合わせて4.6%と非常に少なかった。心身の健康状態は, 学業の取り組みに影響する。また, 学生は将来, 人々の健康を守る専門職を目指していることから, 自己の健康管理について意識を高めていく必要があると思われる。

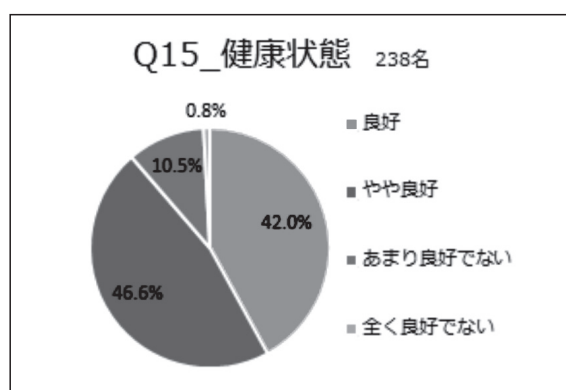


図9 4月以降の健康状態について

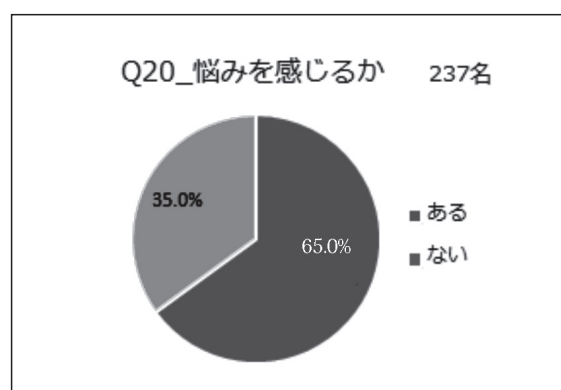


図11 悩みを感じるか

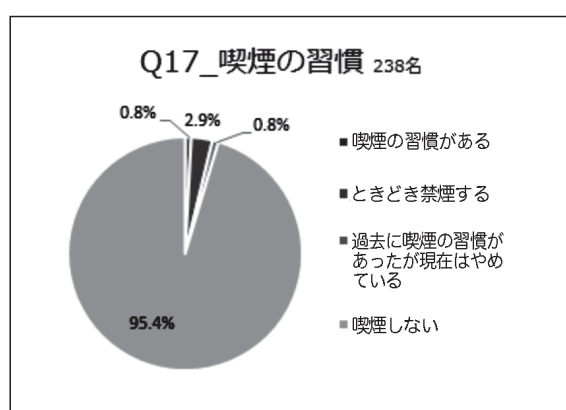


図10 喫煙の習慣について

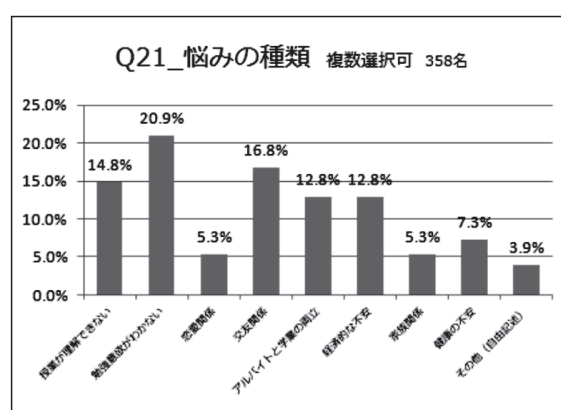


図12 悩みの種類について

1.5 課外活動について

クラブや同好会などの課外活動への参加については (Q23), 「参加している」 59.7%, 「参加していない」 40.3%であった。参加動機は (Q24), 「活動内容に興味があった」 34.3%, 「友人・仲間づくり」が25.8%であった (図13)。課外活動でのトラブルに関して (Q25), 「人間関係がうまくいかない」「内容が期待通りではない」という回答があったが、概ね問

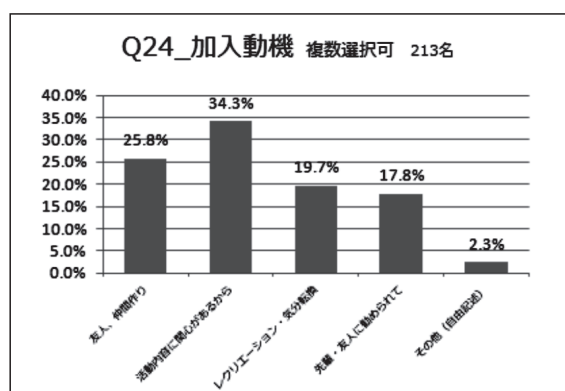


図13 クラブ・同好会の加入動機について

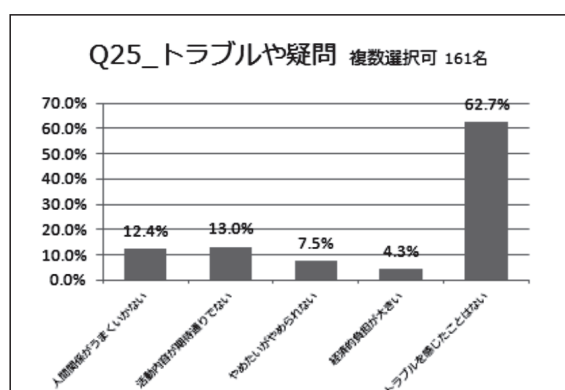


図14 課外活動でトラブルや疑問について

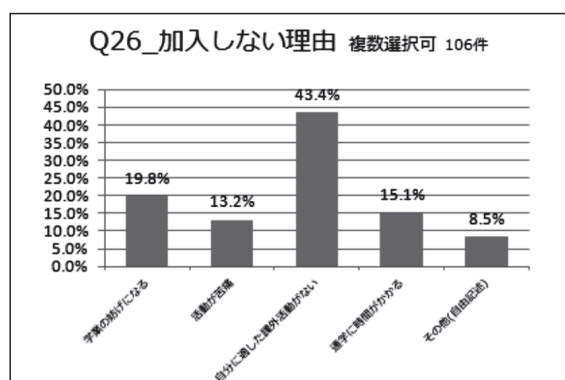


図15 課外活動に加入しない理由について

題がないことが分かった (図14)。加入しない理由は (Q26), 「自分に適した課外活動がない」 43.4%, 「学業の妨げになる」 19.8%であった (図15)。今年度から新しくいくつかの同好会が設立されており、今後参加者の増加が期待される。

1.6 アルバイトについて

アルバイトについては (Q27), 71.5%の学生が「アルバイトをしている」と回答した。アルバイトの動機は (Q28), 「主に生活費・学費にあてるため」 74.3%と最も多かった。アルバイトの職種は (Q29), 「飲食店」 64.9%, 「家庭教師」 3.5%, 「コンビニ」 12.3%であった (図16)。アルバイトの頻度については (Q30), 「主に土日」 35.1%, 「長期の休みに」 15.2%であった。約半数の学生は、時間割が過密であることから、平日を避けていたと思われる。一方では「平日と土日」、「ほとんど毎日」と回答した学生が合わせて41.5%いることがわかった (図17)。アルバイトの月収については (Q31), 40%以上

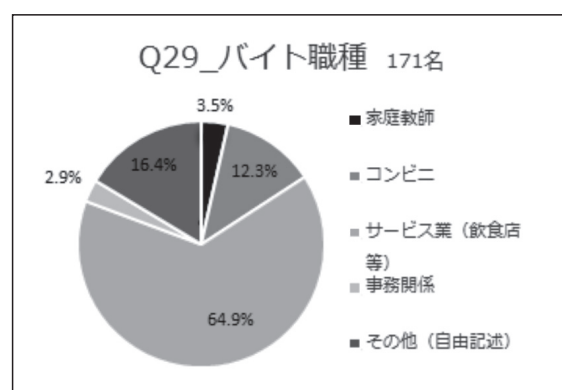


図16 アルバイトの職種について

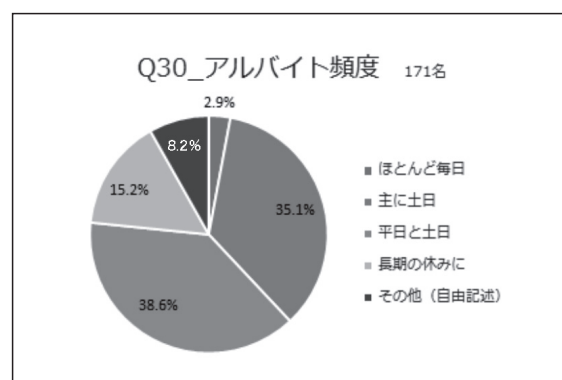


図17 アルバイトの頻度について

の学生が4万円以上の収入を得ていた（図18）。アルバイトが学業に支障があったか（Q32）、「ほとんど支障がなかった」が60.9%、「ある程度支障があった」が37.3%であった。生活費・学費のために学業に支障を感じながらもアルバイトを続けている学生もあり、学習状況に応じてアルバイトと学業についての指導が必要であると思われる。

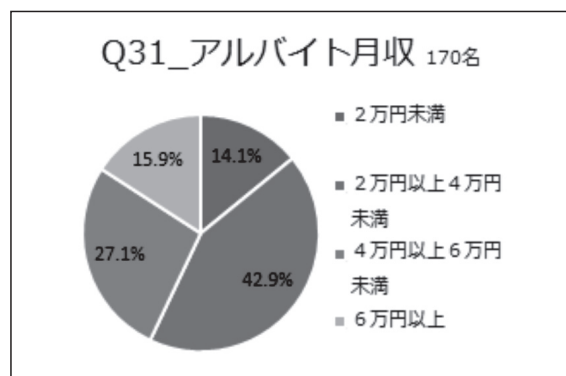


図 18 アルバイトの月収について

1.7 住居・通学状況について

住居形態については（Q33）、「自宅（家族と同居）」が78.8%、一人暮らしが20.0%であった。3年次の学生の中には、本格的に臨地実習が開始される3年次から大学近くのアパートで1人暮らしを始めた学生もいる。生活環境については（Q34）、「満足している」が88.0%であり、不満の理由は（Q35）、通学に不便な点を挙げる学生がいることが分かった。

通学手段については（Q36）、1年生は58.5%「公共機関とスクールバス」を利用しているが、学年が上がるごとに「自動車」の割合が増えていた（図19）。通学時間（Q37）も学年が上がると短くなっ

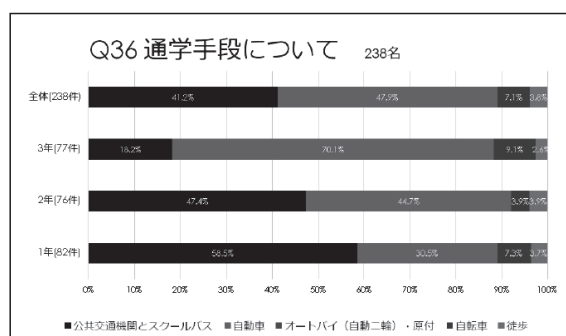


図 19 通学手段について 学年別

ていた（図20）。特に3年生になると通学時間が短縮されている。原因として、一人暮らしを始めたことや、自動車を利用する割合が増加したことが背景にあると考えられる。通学時間は、全体では1時間以内が74.5%であるが、2時間以上かかっている学生が1.7%存在していた。

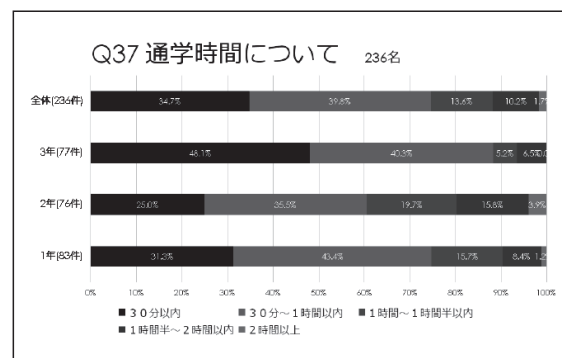


図 20 通学時間について 学年別

1.8 他の生活関連について

他の生活関連について、奨学金の質問や経済面、ハラスメントなどの学内外での問題について質問を行った（Q38）。奨学金を「受けている」学生は57.7%であり、多くの学生が奨学金を利用していることが分かった（図21）。奨学金の種類は（Q39）、「日本学生機構」が72.3%で圧倒的に多く、「医療機関の奨学金」や「地方自治体の奨学金」を受けている学生は少ないことが分かった（図22）。現在の経済状況については（Q40）、31.0%学生が「苦しい」「やや苦しい」と答えていた（図23）。

強引な勧誘を受けたことがあるかについては（Q41）、「宗教関係」が6.9%、「勧誘にあっ

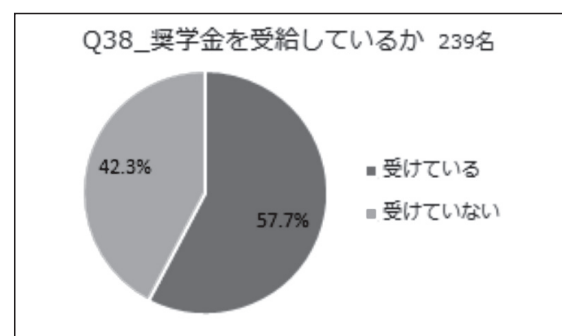


図 21 奨学金を受給しているか

たことがない」89.6%であった。いたずら電話を受けたことがあるかについては（Q42）、「ある」が17.2%であった。ストーカーの被害については（Q43）、「ある」が13.0%であった。ハラスメントについては（Q44）, 3.4%が受けたことがあり、その相談相手は（Q45）,「友人・知人」41.7%,「家族」25.0%であった。

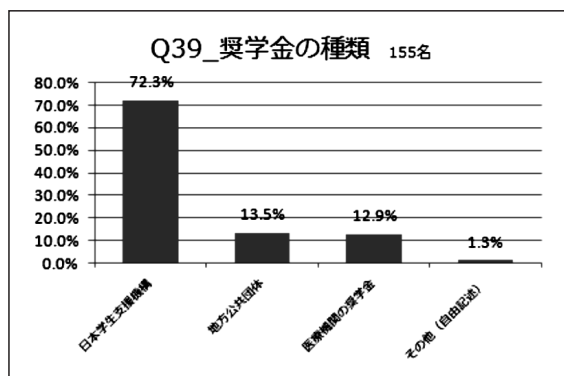


図 22 受給している奨学金の種類について

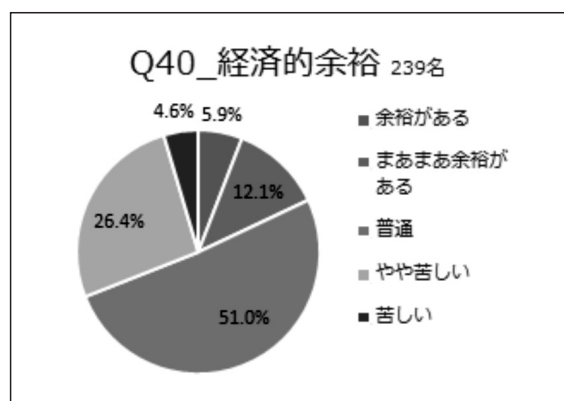


図 23 現在経済的な余裕はあるか

1.9 卒業後の進路について

卒業後の進路は（Q46）, 95.0%が「就職希望」であった（図24）。職種については（Q47）, 78.4%が「看護師」を希望しており、「保健師」が14.9%,「養護教諭」が3.0%であった（図25）。進学希望者は5.0%で、希望する進学先は（Q48）,「看護系大学院」と「助産師資格取得のための専門学校など」であった。学生の多くは目的意識が高く、就職、進学をあわせ保健・医療、教育の専門職を目指していることがわかった。

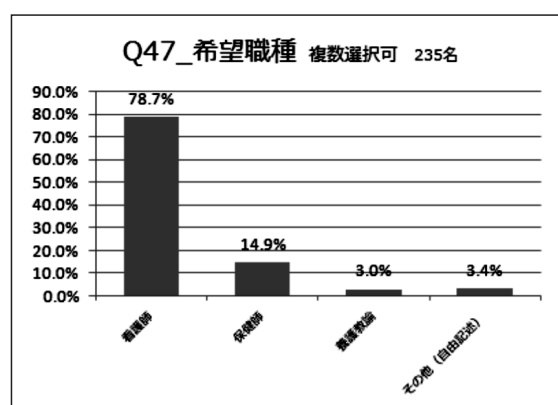


図 24 卒業後の進路希望について

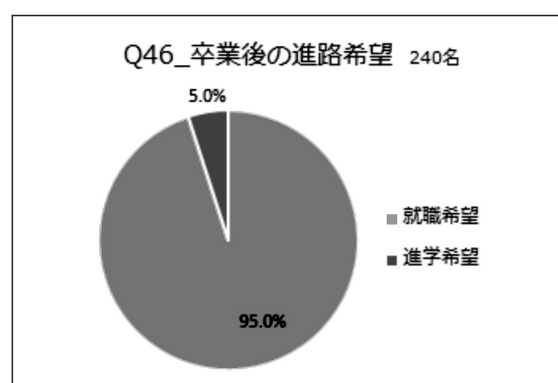


図 25 希望する職種について

2. 自由記入欄における意見

大学に対する要望としての記入数は58件であった。内容をカテゴリー化すると、スクールバスを含む「施設・設備」に関するものが最も多く30件、「教育」に関するものが15件、「学生生活・キャリア支援」に関するものが12件、「その他」が1件であった。

「施設・設備」について最も多かったのは、スクールバスに関するもの（18件）であり、次に学生駐車場に関するもの（7件）、学生寮に関するもの（2件）、図書館に関するもの（1件）、エアコンに関するもの（1件）であった。スクールバスについては、最寄りの駅から大学までの運行数の増加、キャンパスが2校地であることからキャンパス間の直行バスの運行に対する要望であった。

学生駐車場に関する要望は、本城キャンパスの学生駐車場が不足していることや、駐車場が遠いことに対する要望であり、現在検討を進め

ている。また、本学には現在学生寮が無いため、作って欲しいという要望もあった。図書館に関する要望は、開館時間と利用時間の拡大を求めるものであった。次年度以降は国家試験対策で利用率が高くなることが予測されることから早急に検討が必要である。

「教育」については、授業に関する要望として、時間割変更の連絡が遅いことに関する改善を求める要望が多く、課題が多いという意見もあった。学生への連絡方法として通常は掲示板を通して行われているが、台風などの緊急時にSNSを利用した連絡手段を希望する学生もあり、今後検討が必要である。また、教室の座席を学籍番号順にして欲しいという要望もあった。

その他では、2校地を大前キャンパスで統一して欲しいという要望があった。2018年度から、本城キャンパスに新棟が完成するため、この点について改善されることが見込まれる。

あとがき

学生支援のあり方を検討するために実施した第1回学生生活実態調査から、いくつかの示唆を得ることができました。

本学部への入学について、大半の学生は目的が明確で、看護職（看護師・保健師）、養護教諭を目指していました。中には家族や高校の教員の助言によるというやや受け身的な学生もいましたが、その学生も入学後の学習過程を通して卒後明確に看護職を希望するように変化しています。このような学生の意志が継続できるように教員組織間で支援していく必要があります。

学業について、授業内容が「ある程度理解できる」を含め「理解できる」学生が多数いました。一方で「内容の理解が困難」と回答している学生もいることから、今後、学習方法の指導や教授法の工夫などが必要です。

健康面について、良好の学生が大部分ですが、「悩みを感じている」学生が多数いました。悩みの相談相手が「友人」が最も多いことからピア・サポーター（学生相互の支援制度）を導入し、学年を超えた学生の交流の機会を設けるなどの検討が必要です。

アルバイトについて、7割以上の学生が経験しており、動機が生活費・学費のためと回答した学生が大半でした。学業に支障を感じながらもアルバイトを続けている学生には、学業とアルバイトの両立について指導や、経済的な問題について相談をし易い環境づくりの検討が必要です。

大学生生活全般への要望・意見・感想は、スクールバスに関して「駅から大学迄の運行数の増加」や「2キャンパスの間の直行便運行」への要望でした。学生の多くは電車通学であることから、過密なカリキュラムの中での2つのキャンパスの往来は、負担が大きいと思われます。2018年度には新キャンパスが完成することからこの点については改善されることが見込まれます。それまでの快適な通学手段の検討が望まれます。

看護学部への満足度について、8割以上の学生が「満足している」と回答していました。今後も継続的に調査を行い学生の生活の実態を把握していきたいと考えております。

調査で得られた結果は今後、関連部門との連携によって学生生活の支援に活かしたいと考えております。大学及び教職員の皆様におかれましても、今後の学生指導・支援に活用していただければと願っております。

調査にあたり御協力頂きました看護学部学生の皆さんに厚くお礼申し上げます。

佐藤 正子（学生指導委員長）

佐藤 栄子（学生指導委員）

鈴木早智子（学生指導委員）

堀 秀航（学生支援課課長）

佐々木 香（学生支援課）

菅野 久幸（学生支援課）